

5月28日、茨城県水戸市で夜空を見上げると、アットワーク本社ビルでは上映が始まった屋上シネマの光と、そこに集う大人たちの歓声があふれていた。地方ではメジャー作品は大型商業施設内のシネマコンプレックスなどで見られるが、マイナー系を見ることは難しい。このため、広くて見晴らしの良い本社屋上を開放し、ファンからのリクエストを参考に国内外の名画の中から良質な作品を定期的に上映する。

その「マニアックな映画館」「パラディーゾ」の開館で、「街の上で」「ノーザンソウル」のインディーズな映画、2本を観ながら、数十人がおいしい料理を食べ、酒を酌み交わし、盛り上がった。地元飲食店3店と協業し、大人の遊び場を提供できた。初めてなので、多少のトラブルはあったものの、杉浦時彦社長の「地元住民が集い、サバカルチャーを楽しめる場を作りたい」という強い思いは届いたようだ。



集まった社長アットワークは水戸市の中心街で路面店など10店を運営する地域

本社屋上で定期的にシネマ上映

一番の専門店。地元を根張り、今年で35周年を迎える。今回の新しい取り組みでは「集客力が弱っている地方都市の街中のにぎわい創出にもつなげたい」としている。屋上シネマを実現するため、設備投資など費用の一部をクラウドファンディングの「キャンプファイヤー」で支援を募った。130人強が支援してくれた。200万円弱が集まったので、費用の8割ほどはまかなえた。「映画のファンが本業のセレクトショップの顧客にダイレクトにつながるわけではないが、今のファッション業界は客層が狭まっており、このままでは限界があるので、間口を広げるべき」と杉浦社長は常々考えていた。

●アットワーク（水戸市）



屋上の「マニアックな映画館、「パラディーゾ」を楽しむ大人の客層

今後は映画上映以外にも、レンタルスペース「1フットップパーク」としてビアガーデンやバーベキュー大会、結婚式の2次会、音楽ライブなどのイベントに活用してもらおうことで、楽しく集える場にしていきたいとしている。街中活性化に向けては路面店前の路地裏も使ったフリーマーケットの開催も計画。11月には地元花火大会を鑑賞しながら、35周年イベントを開催し、自店のファンにも屋上スペースを楽しんでもらう予定だ。